

Google Appsを利用した 学生サービスシステムについて



日本大学総合学術情報センター
吉野英治

はじめに

Googleは社会の破壊者なのか。それとも救世主なのか。

日本大学は、平成19年4月からGoogle Appsサービスを7学部でスタートした。

- 日大への問い合わせ 30校ほど
- 利用大学
 - 日大・東京女子大・一橋大・嘉悦大・芝浦工大・立教大・京都府立医科大・東京リーガルマインド大・東京経営短大・東大阪大・筑波大・長崎大ほか
- 様々な疑問・疑念
 - 本当に無料なんですか？
 - メールの中身を読むのでしょ？
 - CMは、いいの？
 - 永続性は、大丈夫？
 - データを預けていいんですか？

導入理由と経緯

● 背景と理由

- 独立採算制度から起きる情報格差が問題に。
 - そして、財政に陰り…。
 - 学生ポータルへの発展性に魅力！
- 日本大学が導入した理由？

● 経緯

- 全てのメールシステムの統合計画の実施(2005年から2007年)。
- 教職員メール開発・サービス開始(2005・9・1)
- 英語版Gmailリリースニュース(2006・8)
- 2006年学生統一メールの開発で承認(2006・10)
- 日本語版Gmailリリースニュース(2006・11・1)
- 承認撤回。開発を中止して、Gmail導入で承認(2006・12・16)
- Google社と契約締結(2007・3・18)
- 管理システム完成(2007. 3)
- NU-MailGのサービス開始(導入学部7学部)(2007・5・1)

うまい話には、裏がる。 Googleは、本当に信頼できるのか？

- Googleのミッションは、「世界中の情報を整理して、誰もがアクセスできるようにすること」
 - 情報発電所
- 広告は、ミッションを実現するための手段。そして、道具を磨き上げるためには惜しげもなく大金を投入する。
 - 最強のビジネスモデル
 - 収益の99%は、広告費
 - 卓越した財務力(時価総額15兆円。インテルを抜いた)
 - 卓越した研究開発(研究開発費500億円)
 - 設備投資額2000億円
- 無償を実現するための努力
 - ソフトもハードも内部開発。サーバーは、秋葉原より安い。
- グーグルは、ソニーと同じビジョナリーカンパニーである。

会議の焦点

タダほど高いものはない！

- 長くお付き合いできる信頼できる企業である
- きっと学生は、喜ぶぞ……？
 - 既にGmailを導入している学生が多い
 - Google Appsには、学生の使いやすい便利な機能が充実している
 - 未来に向けても学生の喜ぶコンテンツを提供し続けてくれる
 - 世界の大学・企業などで既に稼働中
 - アリゾナ大学・デリー大学など
 - 生涯メールに利用できる(本学校友100万人)
- 導入できない説得ある理由が見つからなかった。

比較検討表

全学部を対象とした学生用統一メールサービスの検討に向けての比較表

比較項目		現在の各学部のメールサービス	統一メールサービス(開発)	Google社教育機関メールサービス(利用)
費用	開発費用(5年に1回)	試算額 約3億円(@2000万)	5,500万円	基本的には、無償。 管理システムの開発が必要
	ランニングコスト	試算額 約2億円	1,500万円	基本的には、無償。
問題点	メールシステムの継続性	◎	◎	○ (現在は、無償。近い将来的には有料化をする予定であるが、無償期間での契約者は継続して無償。)
	サービス内容	平均で中レベルの対応であるが部科・校間で格差がある。	○	◎
	セキュリティ対策		○	◎
	迷惑メール対策		○	◎
	管理体制		○	◎
	広告表示	無	無	有
機能・特徴	メールボックス容量	平均10MB	100MB	2GB
	安全のための機器多重化	一重化	2重化	7重化以上
	運用サポート	平均8時間	8時間	24時間365日
	メールアドレスの自動生成	×	○	△ (登録管理システムが日大には機能不足)
	利用人数	学生の申請でサービス	10万人	100万人(将来的には、生涯メールや校友に対してのサービスが可能)

まとめ

- 2008度より、学生ポータル(NU-AppsG)稼動



- 現在、導入学部は11学部へ増加(未加入3学部)
- 教職員メールもGmailへ移行検討中
- You tubeとの連携検討中(日大TVとの連携)
- 総情センターISMS取得(2007・12)

終わりに

- Googleは、日本大学の救世主であった。しかし、我々の既成概念を破壊した。
- Google Appsのリリースのタイミングは、本学にとって神風であった。ラッキーでした。